



小西由希子
yuk ko KONISHI

条例等に基づいて、審査や諮問を受ける付属機関等に属する会議のうち、公開されるものは、区役所・市政情報室市ホームページにて広報されています。

しかし、懇談会・協議会など、これに属さない会議も多くあります。「会議は原則公開」と言われていますが、付属機関等に属する会議以外は、多くの場合公開について諮られることもなく開催されています。また、公開が認められた会議についても周知が不十分なため、多くの市民は会議そのものがあることも、またいつ開催されるかもわからず、傍聴したり議事録に目を通すこともできません。

市政への市民参加と協働の視点から、ぜひすべての会議が公開について諮られるべきですし、公開される会議開催にあたっては、できる限り周知してほしいと強く要望しました。

地域福祉の計画づくりが いよいよスタート!

常賀かづ子

kazuko TSUNEYOSHI



誰でも住み慣れた地域の中で、障害の有無や年齢にかかわらず、自分らしく安心して暮らし続けたいものです。そのためのしくみを住民参加、当事者主体でつくるのが「地域福祉計画」です。策定にあたっては各区に4つの地域フォーラムを設け、1フォーラム約25人(うち高校生を含む4人市民公募)の委員で構成され、さらに区地域福祉計画策定委員会を設置するそうです。若葉区では先行してH16年1月にフォーラムを立ち上げるため、12月5日に市民公募もされました。他区ではH16年3月公募予定とのことですが、実効性のある計画にするためにも公募枠にとらわれず多くの市民が参加できる場を設定してほしいものです。

ますます厳しい千葉市の財政状況

今年度の財政見通しが今議会で明らかにされました。高い失業率の影響で個人市民税が伸びず、市税収入が当初予算に比べ25億円も減り、前年度と比べると67億円も減収し来年度はさらに下回るといわれています。

一方、歳出では債務負担行為の償還金や新施設の維持管理費の増加が見込まれ極めて厳しい財政状況です。そのため市では各局が主体的に取り組むための予算枠を拡大したり、新5カ年計画や重点7分野以外の事業については昨年度比80%にさだめるなど、従来の予算編成を改める方針を出しました。しかし、表に見えないところで公共施設の運営管理費や修繕費が減額され、市民サービスの質が低下したり、耐震補強対策などが先送りされているのではないかと指摘しました。

まちづくり

~手を上げなきゃ、始まらない!~



福谷章子
shoko FUKUTANI

都市計画マスタープランづくりが、いよいよ市民参加で始まりました。

このプランは「全体構想」と「地域別構想」から成っていますが、11月には、千葉市全域にわたる「全体構想」の素案が示されてパブリックコメントが行われ、22件の意見が寄せられました。しかし、千葉県の構想、千葉市の総合計画、そのもとでの各種基本計画に沿わねばならず、市民の独自性は発揮できません。

一方、「地域別構想」は、住民主体で作る、地域発のまちづくりの構想です。市が準備している「やってみようまちづくり制度」を利用して、アドバイザーの派遣や出前講座を受けたり活動助成を使い、地区計画や建築協定、緑地協定などが結べます。ただし、自ら手を上げないと、絵に描いた餅。都市計画課 (tel:245-5305) に積極的に問い合わせ、市民自らの手で、まちづくりをやってみよう!

今議会中の経済教育委員会では、来年4月からの、こてはし・若葉学校給食センターの調理業務の民間委託と、大宮学校給食センター(仮称)のPF事業としての契約が審議されました。民間委託については平成8年より行革推進項目に位置づけられ検討されてきたものです。

「低コストでより良いサービス」を目指すのが行革で、経費削減だけがクローズアップされるのは考えもの。PFの入札評価でも、衛生・安全については問われても「食の質」などを問う部分はありません。今のセンター方式給食の問題点を捉え、それが改善されるのか、また口にする子どもたちや保護者の意見が反映されるよう指摘し、議案には賛成しました。

どンドンすすむ?! 学校給食民間委託

湯浅美和子

m w ako YUASA

